

第3次行政改革（平成26～33年度）中間報告

1 改革の方針

「成果重視への転換」を掲げ、戦略的政策評価を中心にした成果志向力を高めるための行政改革を実施してきた。財政状況等を考慮しながら、取組み内容の変更を行う柔軟な行政改革として実施している。

2 改革による効果額

(単位：千円)

項目	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	合計
新しい公共による協働の推進	0	10,127	96,912	93,316	200,355
選択と集中によるサービス展開	24,507	68,809	129,028	102,758	325,102
効率的・効果的な行財政運営	0	3,760	4,140	4,430	12,330
計 (ふるさと納税を除く)	24,507	82,696	230,080	200,504	537,787

3 効果額以外の取組み

(1) 戦略的政策評価の実施

目指すべき目的を明確にして、それを達成するための施策体系の立案と修正を市民協働で実施する戦略的政策評価を実施してきた。平成30年度からは、基本構想及び市政経営方針が掲げる重要政策分野を加え全12分野（資料1）で実施している。

(2) 組織見直し

重点施策を効果的に実施するために、随時組織の見直しを実施している。

(3) 業務改善の取組み

報告1のとおり。

(4) 市有財産の売却

資料2のとおり。

(5) ふるさと納税

資料3のとおり。

(6) 取組みの追加

平成30年度から7つの取組み（豊岡市職員人材育成基本方針の改訂、補助金・イベント等評価の実施、公共施設の包括管理業務委託の検討、窓口業務の総合的な改善、豊岡市行政情報化計画の策定と推進、組織の最適化、定員管理計画

の見直し)を追加し推進中である。

4 評価

これまでの行政改革では、職員定数削減、補助金の削減、事務事業評価による事業削減等により、歳出総額の削減を実施してきた。しかしこれら一律のコストカットによって、有効的な行政活動の縮減につながってしまう側面があった。その反省から、第3次行政改革では、収支を均衡させながらも、戦略的政策評価を中心にした成果重視への転換を進めてきた。これによって、戦略性を持った政策立案ができるようになり、「小さな世界都市 - Local & Global City -」へ向かう推進力に寄与している。

一方で、第3次行政改革は当初から行政改革の効果額目標を設定しておらず、歳出削減に対する成果は低い行政改革となっている。平成31年度予算では、公立豊岡病院組合への負担金や社会保障経費等が増加しており、合併特例債の期限が迫っていることなどから財政は厳しい状況となっている。

これらのことから、成果重視の戦略的な政策立案と財政状況の改善（歳出削減と歳入増加）の双方に寄与する「行財政改革」の実施が求められていると判断している。